

# 競走馬の中骨間筋起始部における類石灰化

競走馬保健研究所研究三課出題 第15回獣医病理学研修会標本 No.219



1



2

症例並びに主要臨床像：サラブレッド種，騾，北海道産，昭和37年生(6歳6ヶ月齢)，東京都内繁養。該馬は2年間の競走歴(33回出走)を有し，競走成績は原因不明のまま漸次不良となった。臨床的に特記すべき既往症はなかった(前肢における運動器疾患，特に中骨間筋の障害は認めない)。しかし昭和42年5月(4歳9ヶ月齢時)，第1乃至第8胸椎棘突起骨折発症，研究用実験馬として日競研に移箱，繁養されていた。以後，実験的に両側中手骨前面から円鋸術による小骨片摘出及び声のう摘出術が実施された。昭和44年2月，薬物による心房細動発症実験中に急死したため，直ちに剖検された。

肉眼像：中骨間筋起始部には著変をみなかった。

組織像：中骨間筋起始部において，ヘマトキシリン(以下Hと記す)染色物質の限局性塊状乃至顆粒状沈着巣が観察され，軟骨性化生に至る限局巣も見出された(写真1， $\times 54$ )。

H染色物質の多くは筋腱移行部で著明，該沈着は線維走行にほぼ一致してみられた。その形状は比較的太い棒状物の集塊，細い線維状又はその断裂，点状微細顆粒など種々の形態を示した(写真2， $\times 229$ )。これらの筋腱移行部は核の増数，膠原線維および微細弾性線維の増殖ならびに断裂，細網線維の増生，増幅，断裂がみられ，且

つ水腫性変化を伴った。一方，この部の特殊染色では類粘液(モリブデンヘマトキシリン染色)陽性，酸性粘液多糖類(コロイド鉄染色)弱陽性，アルシアンブルー疑陽性，PAS疑陽性，硝酸溶解能陰性，ペプシン並びにトリプシン消化陽性，Kossa並びにアリザリンレッドでCa陰性，鉄(ベルリン青)陰性であった。

筋腱移行部に連続する筋組織はしばしば塊状筋変性，巣状空胞化等がみられ，これらの巣状筋変性領域に存在する細小血管には時折壁の水腫性粗鬆化乃至膨化が見られた。腱或いは筋周膜に走行する小神経束には稀に神経線維の部分的な水腫性変化が見られた。

以上の所見よりH染色物質は筋腱移行部の水腫性変性過程において，膠原線維，弾性線維並びに細網線維の変性並びに増生の結果，酸性粘液多糖類の増量をもたらしてできた所謂類石灰化と考えられた。

この類石灰化は真の石灰化に移行するかどうかは明らかにされなかったが，すくなくとも競走馬の臨床外科学の分野で言われている第3中手骨近位掌側面の中骨間筋起始部に発症する深管骨瘤との関連性が考えられるので，今後，興味のもたれるところである。

組織学的診断：中骨間筋起始部における筋腱移行部の類石灰化。